

令和 5 年度 障害者団体等ヒアリングの結果（まとめ）

項目	件名	内容
団体活動支援	家族会活動への支援	家族会としていつでも利用できる場所の提供を願います。また、他市ではホームページ制作も支援しています。さらに補助金は社協からの不確かな配分ではなく、市からの直接配付をお願いします。
	地域生活支援の充実	失語症のグループを作っているのですが、新しい人が入ってきません。会話パートナーの先生にも頼んでいるのですが入ってきません。失語症で困っている人はいそうな気がします。何かいい方法があれば教えて下さい。
	団体活動の継続性について	会の存続が難しい。会の役員が高齢化し、なり手もない状況である。武蔵野支部として活動していることもあるため、本部とのやり取りも大変である。他団体の運営等について聞いてみたい。会の開催日程の調整についても、体調等により電話に出られないことも多いので、難しい場合がある。
	「親の会」への支援	活動が停滞している。行政、社協などの支援が必要。
	ボランティアの育成と活動支援の推進	失語症会話パートナー養成講座の実施継続と、スキルアップのための研修支援。また、障害別のフォローアップ講座を希望する。
	ボランティアの育成と活動支援の推進	失語症を理解してもらうための市民向け講演会実施などの広報活動の支援が欲しい。
	ボランティアの育成と活動支援の推進	2018 年から始まった東京都「失語症者向け意思疎通支援者養成講座」では、本年度までに武蔵野市から 5 名の修了者が出ており、支援者派遣事業の実施に向け動き出していると聞いています。コミュニケーションをとるのが苦手な失語症者にとって、同行支援者の存在は社会参加への大きな助けとなり得ます。一日も早く実現することを希望しております。
	学習教材の保管・管理	交流や学習が団体での活動ですが、学習用の教材（書籍、DVD、ビデオ）の保管場所がなく大変困っています。 今は会員の家庭に分散して保管している状況ですが、保管場所がない中で無理を言って家に置かせてもらっている状況です。 ぜひ、7期計画の中で、団体で保管する教材や機材を無料で確保して使用できる環境の整備をお願いいたします。

項目	件名	内容
団体活動支援	障害者福祉センター建て替えについて	私達の会の活動拠点として(CD コピー機の設置、返送される CD の保管場所として)現在のような録音室と作業室を確保していただきたい。 録音に際し、外部からの音が入ってこない構造の部屋が必要。機器の収納や CD 等の保管、ダビングや作業を行うためのスペースが必要。
	なり手の課題	毎年度 2, 3 人辞めていってしまう現状である。会の人数が少なくなっている。学生のサークル活動などと一緒にできたらいいなと感じている。20 代の男性も会に参加していたが、本業が忙しくなりこの 3 月に抜けてしまった。
	養成講座、説明会	会場の確保(優先が特にない)に困っている。以前は、社協の手伝いや参加があったが、現状はなくなってしまった。(書類を提出してお願いする後援名義だけの状況となっている。)。すべて会の人間だけで対応していて、大変である。養成講座の参加者は作成したチラシを見て申込される方が多い。参加者も高齢の方が多くなった。
	財政面	市の秘書広報課、議会事務局や社協(ふれあい)からの委託を受けることになり、録音データのコピー機器の購入が可能になった。(ある程度財政面の見通しが立った。)市報原稿は 12 ページ程度であり、4 人で手分けし、急いで対応している。(期日が短い場合が多い。)
	活動機会の増強について	ペアレントメンターである保護者という立場での講演会が他の自治体では行われ好評を得ているので武蔵野市でもそのような機会を作っていただきたい。
	活動する仲間の増員	ペアレントメンターの人材育成と保護者の気持ちに寄り添ってくれる仲間を増やしたい。
	その他	ペアレントメンターの勉強会を開催したい。その際、会場(市役所の会議室など)を確保してもらえると非常に助かる。
福祉サービスの利用	視覚障害者支援	視覚障害者の同行援護を利用するにあたり、現在、利用者負担が 1 割(10%)になっている。障害者の外出支援は、基本的な人権に関係することなので、この 1 割負担を武蔵野市で負担してもらえないものか。すでに、都内区部でも地域支援事業として行っているところもある。
	視覚障害者支援	現在、自宅に届く手紙、はがきなどは、ガイドと共に図書館や、近くの喫茶店などに行き、読んでもらっている。できれば自宅で読んでもらいたい。そこで、意思疎通支援の一環として意思疎通支援者の派遣を検討して頂きたい。

項目	件名	内容
福祉サービスの利用	障害者の地域での暮らし方、生活について	家族のレスパイトのためにもショートステイやガイドヘルプの予約や利用がもっとできるようにしてほしい。学齢期を過ぎた重度の知的障害をもった当事者の家庭は親の加齢もあり、家族が当事者の世話をすることに疲弊している。
	障害福祉サービス	視覚障害の方たちのように同行援護の方がほしい。1人ぐらしの人や足が不自由な人たちにちょっとした援護がほしい。
	知的障害者の単身生活をサポートする制度の活用促進	グループホームだけでは足りませんので、居宅支援や重度訪問介護、自立生活援助、地域定着支援等の利用促進、周知をお願いいたします。
	知的障害者の支援について	GH だけが選択肢になるのではなく、1 人暮らし+重度訪問介護の利用等の選択肢もあるので、周知して欲しい。利用ニーズと資源のマッチングが大事なのではないか。
	重度訪問介護の推進	集団生活では精神的に不安定になりやすい自閉症の方が一人暮らしするために、重度訪問介護の利用の推進(周知、事業所の誘致、支給の緩和等)をお願いします。グループホームや入所施設では不安定でも、刺激の少ない一人暮らしに移行することで精神面が安定し、状態が改善する方たちがいます。
	ショートステイ	ショートステイの増設と充実
成人期のデイサービス(成人期余暇活動)	老若男女障がいがある無しに関わらず良い関係性を保ち共存する	障がいのある人たちも感性豊かで美しいハーモニーを目指して音楽を学びながら楽しんでいることを知って欲しい。
	年をとっても楽しい日々を	自分より若い人をみると情けなく感じてしまう高齢の方は多い。75 歳以上になっても参加できるサークルが必要。
	余暇活動の見直し	参加できない人も多い。現状をとりまとめて、しっかり見直してほしい。(社協、ボランティアセンターにも課題あり)
	市民プールでの活動について	一般の方々に迷惑をかけずに泳ぎたく思いますので申し訳ありませんが出来れば2コースお借り出来たらと思います。宜しく願い致します。
	社会参加について	趣味の活動の支援について障害者福祉センターの講習会は 74 歳までで、高齢者センターに行くように言われますが、健全な人と障害者ではまったく違います。趣味をやりたい人でもできなくなるのはどうでしょうか？ どこかで高齢の方たち、80 才ぐらいまで社会参加のことも考えると、ほしい場所だと思います。

項目	件名	内容
成人期のデイサービス(成人期余暇活動)	障害者支援について	健常者だけではなく障害者も健康寿命を延ばす事は大切です。日常の活動の中に運動を意識した活動をしてほしい。市報で健康スポーツの講座のお知らせをみても参加できないことが多い。
	成人の居場所・活動プログラムの拡充	体育館でされているプログラムの拡充と他の余暇についても充実をお願いします。充実したプログラムのある日中一時の場所が増えるといいと思います。
	成人の余暇活動	通所事業所の利用後の時間が問題だと感じている。余暇活動の選択肢の幅が広がるとよい。学齢期の児童については、放課後等デイサービス、部活、日中一時事業者の利用(日中一時)で忙しい。個人の経験だと、人気のある日中一時事業者の利用希望者が多く、待機状態が長く続いていた。(いったん日中一時事業者を辞めてしまうと、待機状態に戻ってしまうので、辞めずに頑張って通っているかたも多いらしい…)
地域生活支援施設(入所・GH)	老人グループホーム	重度の知的障害者が、通所等が無理になったときに入居できる医療的ケアの整った老人ホームを建設していただきたい。
	障害者の地域での暮らし方、生活について	重度の知的障害者が利用できるグループホームを市内に作ってほしい。軽度や中度の当事者のグループホームも足りていないが、職員をより増やして手厚い支援が必要な重度の知的障害者ができるグループホームが少ない。
	障害者の地域での暮らし方、生活について	住宅対策課と連携し、市内の空家を活用するグループホームを作ってほしい。親の会などはこれまで市内に入所施設やグループホームを今後も新たに作り続けることを要望してきたが、土地を探すことや土地購入費、建設費、維持費を考えると現実的に難しいと考える。
	障害者の地域での暮らし方、生活について	重度訪問介護を利用して地域で暮らすことを希望して選択する当事者及び親にはその利用を認めてほしい。また、当事者の親から市内のグループホームや入所施設の入居希望があっても、地方の施設にしか空きがない場合は、重度訪問介護を利用して市内で暮らし続けていく選択肢もあるということを障害福祉課から当事者の親に伝えてほしい。
	住まいについて	障害者が住み慣れた地域で自立した生活が送れるように GH の充実と一人暮らしができるしくみづくりもして欲しい。
	生活について	卒後の生活を支える通所施設、特に身体障害者の施設が不足しています。充実化をお願いしたい。

項目	件名	内容
地域生活支援施設(入所・GH)	地域生活支援について	若い年代の保護者は自分たちの子がグループホームや入所施設に入れるか心配しています。保護者が安心できるよう、グループホーム入所施設の更なる充実をお願いします。
	まちづくりについて	知的障害者が(重度の人が)入居できるグループホームの増設をお願いします。終のすみ家の確保を。
	グループホームについて	グループホームの更なる増設をお願いいたします。また、マッチングや監督するような仕組みもあると安心すると思います。
	グループホームについて	入りたいけど、入れない人が多い状況と感じている。軽度(知的)の GH は増えている印象だが、重心の方や医療的ケアの方の GH が不足しているように感じている。GH が増えていることはありがたいが、サービスの質の向上もあわせて担保して欲しい。(支援者の質の向上や信用できる団体や事業所が増えるとういと感じる。)実際の GH の支援内容や状況は見えにくいので、市の指導等をお願いしたいと思っている。
	グループホーム支援の質の確保・地域のニーズを踏まえたグループホームの整備	グループホームの数が増えるのは有り難いのですが、障害福祉サービスの実績や経験が乏しい事業者の参入が増えると、障害特性や程度に応じた支援の質の低下が懸念されます。数だけでなく、質の確保もお願いしたいと思います。事業所による協議会の設置や外部評価等、確実にお願いしたいと思います。また、実際のニーズとかけ離れたグループホームが建設されても入居出来ないで、空室があってもグループホームが充足しているわけではありません。地域の具体的なニーズを踏まえて計画的にグループホームの整備を進めていただきたいと思います。
障害児支援	多様性のある社会にむけて	型にはまらない施策が必要と思う。学校教育は勿論、幼児期からインクルーシブな生活の中で育つように、ママ友、パパ友などの力を借りて、楽しい行事などを通じて交流を深める。保健センター増築に伴う子ども施設の中に障害児も視野に入れた計画を希望する。教育委員会にも踏み込んでほしい。

項目	件名	内容
障害児支援	学習について	先生の質を上げて、個別対応して欲しいです。支援級には学習指導要領がないので、先生個人の力量に左右されてしまっています。学校でどのような指導がされているのか、どのような出来事があるのか、風通しをよくしてほしいと思います。一年生が毎週平仮名一文字だけ、六年生の国語が半年以上ローマ字等、訴えてもその場対応で根本的には変わっていません。
	学習について	特別支援学級のカリキュラムがないので、是正してほしい。学習の質・内容の担保。特別支援学級は、様々な障害特性を受け入れるので、難しい側面があるのではないかと。特別支援学校ではこういった話(噂)はあまり聞かない。
医療との連携	訪問診療(アウトリーチ)事業の拡充	訪問診療(アウトリーチ)事業を実施して、精神科医療に繋がるようにして欲しい。現在は世田谷、練馬、豊島区や八王子市などですが、地域で安心して「暮らしていけるようにして欲しい。また、24時間相談できる医療体制もお願いしたい。
	医療機関について	パーキンソン病の専門病院が近くないので不便である。
	住まいについて	医療連携型の GH の設立や、わくらす武蔵野の医療連携の充実をお願いしたい。
	まちづくりについて	高齢になり仕事ができなくなったり、通所が無理になった人達が入居できる障害者のみの医療的ケアの整った老人ホームの建設をお願いしたいです。
防災対策	防災・災害時・緊急時について	特別支援学校から「避難行動要支援者登録制度」のお知らせが配られたので、登録制度に登録して民生委員さんと話をしたが、実際に起きた時にどのような方が来られるのかわからないので、どのようになっているか知りたい。
	防災・災害時・緊急時について	最近は避難訓練でも、自宅で避難ができる状態であれば、自宅避難できる準備と言われるが、緊急の時など、子どもを預かってもらえる所はあるのか？どこに相談すればいいのか。
	防災・災害時・緊急時について	防災課で地域の防災訓練があると教えてもらった。一時避難で支援が必要かどうかを判断して、二次避難で福祉避難所などにつながるそう。けれど、子供を連れて移動するのが大変なので、はじめから福祉避難所などにつながるような形が必要で、見直しをして欲しい。
	防災・災害時・緊急時について	防災課では、避難訓練があるので、それに子どもと参加してもらい、場所のザワザワなどにも慣れてもらうのもいいのでは、とお話が合ったけれど、それが難しいので困っている。

項目	件名	内容
防災対策	防災・災害時・緊急時について	10 年ほど前(東日本大震災の頃)に都から電源配布があったが、それが緊急時に動く(足りる)のか心配。電源確保が必要。
バリアフリー	バリアフリー	吉祥寺の町中に点字ブロックを増やしてほしい。
	まちづくり・バリアフリーについて	市内に楽しめる施設がたくさんあるのはありがたい。気軽に車椅子ユーザーの子ども集まりたいが、なかなか難しい。
	まちづくり・バリアフリーについて	トイレには赤ちゃんのオムツ替えシートはあるけれど、子どもが大きくなると、大きいシートが必要になってくる(介助用にも使える)。しかし、市内の都立公園も市立公園も、他の施設にも設置が少ないので、駐車場の自家用車まで戻って交換をしている。多機能トイレに大きいシートのあるトイレが増えるといいと思う。
	まちづくり・バリアフリーについて	民間の方がバリアフリーの備品などを設置される時に使える助成をしてほしい。
	まちづくりについて	店やトイレ、エレベーターなど誰もが使えるように便利になったが、そこ、それしか使うことのできない障害者が使えないことが増えています。ハード面と障害者理解両面で考えて欲しい。
	まちづくりについて	高齢者や障がいのある人達が少しの間休憩ができるような主だった道路(井の頭通り、五日市街道、中央通り)などの歩道に、一定の間をおいて腰かけるものを2～3コ用意頂きたい。(出来れば屋根付きの)
	歩道の整備を	歩道にレンガやタイルを敷き詰めた目地の段差でガタガタと振動するので整備してほしいです。
情報保障	情報提供について	武蔵野市動画チャンネルに手話をつけて配信してほしい。
	意思疎通支援事業	意思疎通支援事業を知らない人は多いと思われる。
	意思疎通支援事業	環境整備、合理的配慮を念頭に市のすべての行事等への要約筆記や手話による情報保障を。予算増で備えてほしい。
	意思疎通支援事業	敬老福祉の会では手話通訳は当日つくが、要約筆記は事前申し込み。全部に付けて欲しい。市長の話を市民に届けるのも行政の責任。環境整備をしてほしい。
	意思疎通支援事業	手帳を所持していなくても高齢で難聴の方はいる。厚労省の調査でも、文字による情報保障は多いと結果で出ていた。聞こえる人でも字幕で理解することがある。要約筆記をつけてほしい。

項目	件名	内容
情報保障	情報保障の充実	全ての講演・講座に要約筆記者、手話通訳所を付けて欲しい。保健センター・消費者などの講座・イベントなどにも主催者に周知努めて下さい。他(コミュニティセンター、プレイスなど)
	情報保障の充実	コロナ前に市報で見て消費生活センターの講座に参加しようとしたが、主催者に手話通訳の派遣が認めてもらえず個人で手配した。市報に手話や要点筆記の有無について記載がないことも多く、依頼するハードルも高い。
	情報保障の充実	中途失聴の会について、要約筆記者の派遣回数を増やしてほしい。
相談・情報	相談支援体制について	「実態調査」にもあるように「どこに相談したらよいか分らない」と答えている当事者が多いことから、「こころの健康に特化した相談センターの設置を望む(例:調布市こころの健康支援センター)」
	福祉人材の確保と育成に向けた取り組み	第7期策定に向けた実態調査では「何が利用できるかわからない」「サービスの利用方法が分かりづらい」「サービスを利用するための手続きが大変」の回答数が前回調査より増えている。サービスが必要な当事者に情報が届いているか？当事者に対しサービス利用理解への配慮や支援ができているか？懸念する。
	障害者・家族のまるごと支援を	誰にも相談できずにひきこもっている人がいます。(8050問題)の対策強化のためにも、家族まるごと支援を願う。
	成年後見制度	相談支援にあたっては、親のあるうちから親なき後の備えとして、当事者と家族が持続的・総合的な相談ができるよう体制を整えていただきたい。
	情報の共有化と提供	近年、障害者だけではなく、高齢者、子どもへの支援と活動の幅も広がりつつある中で、自治体も、図書館、障害者福祉課、高齢者支援課、子ども家庭部など、横の連携を深めて情報を共有化し、ボランティア団体の情報など、サービスを必要としている人への情報提供をお願いしたい。
啓発事業	周知・啓発	パーキンソン病患者が一人で動くことは、危険を伴うことをもっと理解して欲しい。
	情報の共有化と提供	各所へ活動内容のチラシ配布等を行っているが、利用者への周知は十分ではなく、また利用者の要望も伝わってこない。

項目	件名	内容
啓発事業	活動における広報について	ペアレントメンター活動を教育の場にも広げて、より必要な人にも届くようにしていただきたいです。(例:チラシを学校にも配布する)
人材育成・活用	福祉人材の確保と育成に向けた取り組み	事業急増で市担当職員の請求業務等の負担増と共に、事業者のサービス内容の健全性確認業務が手薄になるのではないかと危惧する。
	福祉人材の確保と育成に向けた取り組み	市の第六期長期計画は福祉人材の確保と育成に向けた取り組みにおいて「福祉人材の確保は喫緊の課題である」とし、以下、健康福祉計画と障害福祉計画も同様の取り組みを掲げているが、市が対応するには限界があると考えます。 そこで、事業所間の連携を提案する。事業内容は多様であるが、利用者は複数事業を利用しているか利用したいが利用方法がわからない可能性もあり、事業所間のネットワークを構築することは、障害当事者ならびに家族の生活の質を向上すると考える。
	大きくなった障害児者の課題解決	保護者も高齢になり、親子とも安心して暮らすことが難しくなっている。個人差も大きいので、キメ細かな対応が必要。担当者の増員なども必要。
	障害者支援について	障害者支援に携わる職員不足によって希望するすべての事が叶わない状態にあります。(毎日の作業所の支援・グループホームの増設 etc)抜本的な改革を行ってもらわなければいつまでたっても解決しません。例えば、支援にあたる職員に向けて税優遇・クーポンを配布して生活を支える・家賃補助など大胆な策を真剣に考えてもらいたい。
	専門職の育成	最近、短期間での図書館障害者サービス担当者の異動が多い。障害者サービスには専門知識も必要であり、利用者との関係構築、ボランティアとの速やかな連携も不可欠である。 以上のことから、担当職員の定着化、専門職としての育成を切にお願いしたい。
成年後見制度	権利擁護支援	成年後見制度の利用を広く障害者の権利擁護の手段の一つと捉えて、権利擁護支援を総合的に進めてほしい。その際、意思決定支援が重要な要素となるため、広い分野で意思決定支援が実行されるよう周知啓発を行っていただきたい。
	権利擁護支援	上記の視点のもと、様々な分野で意思決定支援が実行できるよう人材育成に努めていただきたい。

項目	件名	内容
成年後見制度	権利擁護支援	福祉公社や障害者相談支援事業と連携して、障害者に対する成年後見等を含めた親なき後の障害者への支援を行っていただきたい。
移動支援	経済支援について	移動に伴うタクシー代や会の会報の発行に伴う費用など、経済的にも苦慮している。
その他	市内外の障がい者支援	武蔵野市の障がい者施策を考えるに当たり、市内在住者を中心に考えるのは当然として、他の市・区から市内の障害福祉サービス事業所に通所している方々や、市内の企業に通勤してきている障害を持つ方々に対しても、より一層支援を充実していただけるようお願いしたい。
	寄付について	法人にでも行政にでも、普段お世話になっている先に気軽に寄付ができる仕組みがあればよいと感じる。支えたいと思っている人はいる。
	文化芸術	吉祥寺美術館を生かしたボーダレスアートの推進を希望。